

1 学校として目指す授業

子供が自ら学べることのできる授業 「考える授業」から「学ばせる学習」へ

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語で、特に課題となった区分は「情報の扱い方に関する事項」である。複数の情報を比べて整理し、自分の考えをまとめる力を伸ばす必要がある。 算数で、特に課題となった区分は「B図形」である。図形の性質について正しく理解したり、基本図形を分割して面積を求めたりする力を伸ばす必要がある。 理科で、特に課題となった区分は「エネルギー」を柱とする領域である。ふりこや電磁石の性質について正しく理解したり、比較実験を通して「量的・関係的な見方」を伸ばす必要がある。	質問紙調査においては、以下のような課題が考えられる。まず、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか。」という質問に対し、肯定的な回答をしている児童が東京都平均よりやや下回る。また、「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか。」という質問に対し、全国平均や東京都平均に比べ、学習時間が短い。このことから、課題に対し、自分で学ぶ方法が分からず、自己学習の力が低いことが課題である。自分で学ぶ方法を身に付ける「学び方」の指導が必要であると考えられる。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

・主要教科についての理解度は、肯定的な意見が85%以上となっている。しかし、得意不得意の意識の程度は、肯定的な意見が75%と理解度に比べて低くなっている。そのため、児童が学習に取り組む際、「周りの人の役に立つ」「自分の将来に役立つ」等の内発的動機付けとなるような働きかけをすすめることで、学習意欲を高めることを目指す。
・学習の進め方は、昨年度低かった粘り強く進めるに関する項目については、肯定的な意見が増えた。しかし、「工夫しながら進める」、「対話しながら進める」に関する項目の肯定的な意見が75%と低い傾向にある。意図的に対話を取り入れた授業展開を行っていくこと、個別最適な学習を取り入れ、それぞれが工夫しながら学習を進められる力を付けさせることが必要である。
・学習習慣は、家庭学習、塾等の時間が30分～1時間未満が3分の2以上である。学校での授業の充実とともに、家庭学習と学校での学習をつなげる工夫が必要である。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

教科総合では、正答率が国語63.0%（市平均62.3）、算数69.1%（市平均68.0）と、両教科で市平均を上回る結果となった。基礎での市平均との差は1ポイント以下であるのに対して、応用は3ポイント以上となっていた。領域別に見ると、国語では「話すこと・聞くこと」だけが市平均と比べて、－1.2ポイントとなっていた。また、算数では、全ての領域で市平均を上回っているものの、「数と計算」だけが0.4と1以下となっていた。国語では「話すこと・聞くこと」の学習にウェイトをかけて学習活動を展開することを考える必要がある。算数では、どの領域でも継続していくことが肝要となるが、特に「数と計算」の領域については、学習の始まりや振り返りなので、既習事項を復習することが望まれる。朝の学習の時間には、ドリルパークの計算問題に取り組み、ICTも活用する。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・東京都統一体力テストでは、主に「瞬発力」や「運動のタイミングをとる調整能力（巧緻性）」「粘り強く続けていく持久力」に課題がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・基礎的・基本的な学習が定着していない児童が多いため、東京ベーシックドリルの復習や家庭学習の啓発を促す必要がある。
・話を聞くことで理解をすることが難しい児童が多いため、視覚的な支援も取り入れながら、言語活動の充実を図る必要がある。
・学習した内容を、自分で活用する意識が低い。

4 学校全体の授業改善の視点

・朝学習の時間や補習等を活用し、反復して取り組ませることで、基礎的、基本的な学習内容の定着を図る。
・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、粘り強く取り組む態度を養う工夫をする。
・校内研究を通して、主体的に学ぶ児童の育成を図る。つまずきを洗い出し、それに対する手だてを複数講じる。

【授業改善推進プランの活用法】

①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。

②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。

③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。

④「3 児童の学力・学習状況等課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の点」を設定する。

⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。

⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導にお生かす。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・毎時間授業の初めに音読する時間を設けるとともに、ペアで自分の考えを伝える活動を取り入れる。 ・自分の考えをもつ時間や機会を十分に設ける。				・数量について、具体物や半具体物を使った数学的活動を取り入れながら、自力解決に繋がるようにする。 ・ペアやグループで自分の考えを伝える活動を取り入れる。				・活動や観察で気付いたことを発表する場を設定する。 ・観察カードにまとめる観点を示し、それを基に自分の考えをまとめる。 ・観察の視点を全体で確認することで、視点をもって観察し、言葉で表現できるようにする。		・曲に合わせた簡単なリズム体操を踊りながら階名に親しむ。 ・簡単なリズムや、ゆっくりとしたリズムなどからスモールステップで取り組ませる。		・友達作品を見て、よいところや面白いところを互いに伝え合う。 ・活動の予定を示し、見通しをもたせてから取り組ませる。				・遊び方の工夫や、運動の行い方についての考えを伝え合う時間を確保する。 ・1単位時間の中で、多様な運動遊びを取り入れ、互いに見合う時間を設け、価値付けすることで、友達のよい動きを知ることができるようにする。				・範読や場面絵を基に、自分の考えをもちながら聞く。 ・自分の考えをワークシートに書く時間を取り、ペアなどで意見交換をし、クラス全体で考えを共有する。	
中学年	・ペア、小グループで自分の考えを発表したり、交流したりする場を多く取り入れる。 ・自分の考えを分かりやすく伝えられるように、基礎的・基本的な力を反復練習するなどして身に付ける。		・児童が「なぜだろう」「調べてみたい」と思うような資料を提示し、児童主体で調べ学習を進められるようにする。 ・プロジェクトや表、図などを活用し、視覚的に課題を提示する。		・基礎的・基本的な計算を繰り返し取り組ませる。 ・ペアやグループで考えを伝え合う活動を取り入れる。 ・プロジェクトや表、図などを活用し、視覚的に支援を取り入れる。		・ペア、小グループで考えを発表したり、交流したりする機会を意図的に設定する。 ・実験・観察等の条件を整理して、考察できるように指導する。				・音楽を形作っている要素や、曲想を表す言葉を掲示物から選択し、それらに関連付けて音楽を言葉で表したり、友達に伝え合ったりする時間を設ける。 ・歌唱では、伸びのある歌声を出すために、必要な発声法や正しい歌い姿勢を身に付けさせる。		・友達作品を鑑賞し、よいところや面白いところを伝え合う。 ・鑑賞の時間を題材の終わりだけではなく、途中にも設定することで、学習したことを自分の作品づくりに生かせるようにする。				・話し合う時間を意図的に設けることで、学び合いの機会をたくさん取り入れた活動をする。 ・見つけたコツや友達からもらったアドバイスなどを共有する時間を設ける。				・自分の考えを学習カードに書く時間を十分にとる。少人数での意見交換をし、全体で意見を交流することで多様な考えに触れられる機会を増やす。	
高学年	・どの児童も自分の考えをもてるよう、交流活動を意図的に設定する。 ・ベーシックドリルや小テストを行い、漢字の読み書きの習熟を図る。		・児童が「なぜだろう」「調べてみたい」と思うような資料を提示し、児童主体で調べ学習を進められるようにする。 ・見学や調べたことを自分の言葉で表現・共有する活動を取り入れる。		・既習事項を踏まえながら、ICTを活用して、思考する時間を確保する。 ・図形に関する指導を重点化した指導を行う。 ・自分の考えを説明したり友達の考えを聞いたりすることで、考えを広げたり深めたりすることができるようになる。		・ペア、小グループで考えを発表したり、交流したりする機会を意図的に設定する。 ・実験・観察等の条件を整理して、考察できるように指導する。 ・既習事項を踏まえながら、ICTを活用して、思考する時間を確保する。				・視覚的支援として演劇の動画を活用する。また、動画を児童が自ら課題を選択して進められるような環境を整え、個別最適な学びとなるようにする。 ・掲示を活用しながら言語活動を行うことで、安心して表現できる環境を整え、言語活動の充実を図る。		・友達作品を鑑賞し、よいところや美しいところを伝え合う。 ・鑑賞の時間を題材の終わりだけではなく、途中にも設定し、話し合うことで学習したことを自分の作品づくりに生かせるようにする。		・調理、裁縫等実践的な活動を多く設定し、自ら考え主体的に行動することができるようになる。 ・協働的に取り組み、アドバイスをし合いながら取り組むことで、互いに高め合いながら技術の向上を目指す。		・グループで話したり運動したりする時間を設け、自分の能力に適した運動の仕方を理解できるようにする。		・英語をアウトプットする時間を確保することで児童が自分の考えを伝える力を向上させられるようにする。 ・単語のゲームを通して、単語の知識の向上を図る。		・自分の考えをICTなども活用しながら、学習カードに書く。多様な意見を尊重し、価値観の幅を広げる意見交換をする。	